

事業所名

きりんせんなん

## 支援プログラム（参考様式）

作成日

2025年

1月

15日

法人（事業所）理念		子どもの人権や主体性を尊重し、子どもの最善の利益を図るため、保護者や地域社会と力を合わせて子どもを主体とした福祉の推進に積極的に取り組みます。											
支援方針		多様な活動・体験機会の提供を通じて、現在抱えている子どもの困り事や生き辛さを改善し、子ども達が自分らしく生き抜く力を育み支える。											
営業時間		平日 土・日・祝・長期休	11 10	時	00 00	分から	18 17	時	00 00	分まで	送迎実施の有無	<input checked="" type="checkbox"/> あり	<input type="checkbox"/> なし
支 援 内 容													
本人 支援	健康・生活	健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出すことを支援する。また、健康状態の常なるチェックと必要な対応を行う。食事、排泄等の基本的な生活のリズムを身につけられるように支援する。身の回りを清潔にし、食事、衣類の脱着、排泄等の生活に必要な基本的技能を習得できるように支援する。生活の中で様々な遊びを通じて学習できるように環境を整える。事業所では、料理やお菓子作りを通じた食育、時間に応じた行動の切り替え等を実践している。											
	運動・感覚	子どもを適切に評価し、日常生活に必要な動作の基本となる姿勢の保持を行う。子どもの発達段階及び特性に配慮した視覚、聴覚、触覚を十分に活用できるような遊び（縄跳び、鬼ごっ、ボール遊び、テニス等）を通じて支援する。事業所では上記の遊びに加え、体操やダンス等を通じた運動療育を行い、視覚や聴覚、触覚を刺激するようなゲームを行っている。											
	認知・行動	視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分活用して、必要な情報を収集して知能機能の発達を促すために、折り紙、プラ板、ビーズ等の制作活動や縄跳び等の身体遊びを学習プログラムとして取り入れている。物の機能や属性、色、形、音が変化する様子、空気、時間の概念の毛一世を図ることによって、それを認知の行動の手掛かりとして活用できるようジェンガ、エレクトーン、ままごと遊び等に取り組んでいる。											
	言語 コミュニケーション	一人一人の子どもを適切に評価し、具体的な物事や体験と言葉の意味を結びつける等により、体系的な言語の習得、自発的な発声を促すプログラムを立案し実践する。発達段階に応じた話し言葉や文字。記号を用いて、相手の意図を理解したり、自分の考えを伝えたり等、言語を受容して表出する支援を行う。子どもの発達段階に対応する身振り、サイン等のコミュニケーションを選定し、環境の理解と意思の伝達ができる機会を積み重ねていけるように環境及び関わり方の調整をする。											
	人間関係 社会性	他人との関係を認識し、身近な人と親密な関係を築き。その信頼関係を基盤として、周囲の人と安定した関係を形成するための支援を行う。遊び等を通じて人の動きを模倣することにより、社会性や対人関係の芽生えを促していく環境調整、関わりを実践する。子どもの発達段階や特性に応じた環境調整並びに関わり方の提案を行い、子どもが自発的に集団に参加し、手順やルールを理解し、遊びや集団活動に参加出来るよう支援していく。											
家族支援		障がいのある子どもの家族に対して、保護者が子どもの発達を心配する気持ちを出発点とし、子どもの育ちを支えていける気持ちを持つようにその過程において関係者が十分な配慮を行い、保護者を尊重、寄り添う支援を行う。						移行支援		障がいのある子どもの発達の状態及び発達の過程・特性を理解して一人一人の子どもの障がい種別、障がいの特性及び発達の状況に応じた支援を行い、子どもや保護者の意思の疎通、情報伝達等の配慮を行う。			
地域支援・地域連携		子どもが地域で適切な支援を受けられるよう関係機関などと連携し、地域全体の子育て支援力を高めるネットワークを普段から構築する。個別の支援会議から生じた課題を自立支援会議等において検討するように働きかける。						職員の質の向上		研修計画に基づき、計画的かつ定期的に全職員及び職層別の研修を実施する。			
主な行事等		1月：初詣、2月：こども科学館、3月：工場見学、4月いちご狩り、5月：乗馬、6月：芋掘り、7月：流しそうめん、8月：縁日祭り。9月：スポーツセンター、10月：カヌー体験、11月：みかん狩り、12月：クリスマス会、餅つき 毎月：お誕生日会、ポーリング、ミュージックケア 各月：英会話											